

## 潜在的なニーズを抱える人やひきこもり状態に関する実態調査

## 目的

「第5期倉吉市地域福祉推進計画」の重点項目である「包括的支援体制の推進」のため、複雑化・複合化した課題を抱えながらも支援が届いていない世帯やひきこもり状態にある人の状況を調査し、一人ひとりの状況に応じて柔軟に対応した支援メニューや体制の整備を検討していくための基礎資料とする。

## 調査概要

①市民、②民生委員・児童委員、③関係機関・団体を対象として、3種類の調査を実施。それぞれの視点、立場から回答してもらう

## 調査①

倉吉市に在住する満15歳以上の市民2,000名を対象に、人々のつながりに関する調査を実施。

【回収数949名（回収率47.5%）】

## 調査結果

- 孤独感がある年代は、20～50歳代が多い。（各年代40%）
- 孤独感を感じる要因は、一人暮らし（54%）、転職・退職（54%）が多い。  
失業・進学（25%）、人間関係（25%）、家族（14%）、仕事（14%）
- 孤独感のある人の約半数が、5年以上孤独感が継続している。
- 心身の健康状態がよくない人、現在の生活に不満がある人は孤独感が強い。
- 社会活動の参加としては、PTA・地域活動（36%）が多い。  
特に参加していない人（42%）は孤独感が比較的高い。  
スポーツ・趣味・娯楽（30%）、ボランティア（4%）

## 調査②

倉吉市内の民生委員・児童委員167名を対象に困難な課題を抱える世帯の実態調査を実施

【回収数140名（回収率：83.8%）】

## 調査結果

- ひきこもり該当者は45人（男性8割、女性2割） ※30～50歳代男性が多い  
そのうち5年以上ひきこもり者が半数以上
- 複合的な課題は58件  
高齢の親と障がい者（児）が同居（14件）、8050問題（13件）、老老介護（12件）、ヤングケアラー（1件）、その他（18件）

## 調査③

倉吉市に関係する59機関・団体に対して困難な課題を抱える人や世帯への対応状況調査を実施

【回収数41（回収率：69.5%）】

## 調査結果

- 孤独や孤立状態にあると感じるケースは27件（66%）  
障がい、子どもなどいずれの分野においても少なからずあったが、地域、高齢における分野が高い割合
- 孤独・孤立状態に陥るきっかけとしては本人の心身の不調（63%）が多い  
家庭（44%）、地域との関係（33%）、仕事（26%）、社会参加（22%）
- 相談者や当事者への対応に苦慮することが約9割（88.8%）  
苦慮する内容としては課題が複雑・複合化（37%）、対応できる施策・制度がない（21%）、支援策がわからない（17%）、支援のつなぎ先がわからない（15%）